

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077700120		
法人名	有限会社トコトコ		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	福岡県三井郡大刀洗町山隈23 (電話) 0942-77-4801		
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果確定日	平成24年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームけやきは、「受容・許容・寛容」を理念に掲げ、利用者主体のサービスを心がけている。庭には見て楽しみ、食して楽しむ果樹の木や花などを植え、季節感が感じられるよう工夫している。また、食材は地元で採れた米や自家野菜・果物を取り入れ利用者がより食事を楽しめるように努力している。家族の面会時には利用者の状態等を話し、家族とのコミュニケーションを大切にしている。近隣の保育園児との交流や伝統行事である獅子舞の訪問等地域との繋がりも広まっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成24年11月14日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、けやきの木が植えられ、ホーム周囲は自家農園を施している。四季を感じる場所に位置し、ゆったりとして落ち着いた、家族的雰囲気のある建物である。白を基調とし、木目もと入れられ落ち着いた室内である。天窓からの外光は温かみに溢れている。代表者は、地域への恩返しをしたいとの思いを馳せ、平成15年8月にオープンした。日頃の健康管理や24時間の緊急時対応を行うなど、医療面の体制は行き届いている。また高齢者の尊厳、これまで親しんできた生活の継続を大切にしながら、個々の利用者の日常の支援を、職員が一丸となって心をこめて行っている。地域との交流の円滑化に気を配り、より密着した良好な関係を保てるように努めている。職員が働きやすい現場であり続けるよう努力している。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示しており、職員間の申し送り等で理念の確認を行い、実践に活かしている。	「受容・許容・寛容」という独自の理念を掲げており、認知症の利用者への最大の支援を行っている。また、施設内へ掲示し、この理念の実践にむけて、日常の時々で確認しながら全職員は努力している。	理念は、一度作ったままでなく、地域や利用者のニーズ、事業所の状況の変化によって現状にあった理念に作り変えていくことも必要です。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内在住の代表者が町の情報を伝えている。地域の夏祭りに参加したり獅子舞の行事は来所してもらうなどしていろいろな活動に参加している。地域のボランティアの来訪もお願いしている。	施設長が自治会に加入しているので、催しなどの情報は随時、情報収集している。地域活動への参加を促しているが、利用者の活動量の低下に伴い、できていない。事業所主催の行事へは近くの保育園からの訪問や中学生の職場体験などを受け入れている。また、年2回地域の伝統行事である老松神社の獅子舞の訪問があり、地域との交流に努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営者が地域の方々に機会ある毎に認知症の理解や支援の方法を話している	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、意見交換の場として活用してサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回の会議開催、利用者家族・町および包括職員・地域住民代表・学識経験者らが参加し、利用者やサービスの実際を報告している。会議で出た意見、家族から風邪予防に関する話しなど、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課とは介護認定の更新手続きや入所関係の手続き等で出向き、情報を交換している。推進会議の構成員でもあり連携を密にしている。	町関係者、地域包括支援センターとは運営推進会議や日常のやり取り以外にも、必要時に親交を図っており、協力関係は築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの理念、運営者の信念で禁止している。夜間以外は玄関の施錠は行っていない。	日中は居室・玄関とも施錠はしていない。玄関にはドアベルを設置している。職員は改めて利用者の外出傾向を把握し、注意を徹底している。20時以降は夜勤者1名になり、安全のため施錠している。身体拘束に関する指針やマニュアルは完備され、身体拘束しないケアが実践されている。	権利擁護に関する制度について、職員全員に対し内部研修を徹底して欲しい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習をテキストで学んだり、日頃の情報交換から虐待がないよう防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットなどにより、必要な人への説明を行っている。職員間での周知、理解を図っている。	制度に関しては、契約時に利用者・家族へ説明している。中には家族から直接、手続きをされる方もいた。施設長・管理者以外は知識を得る機会がない。	研修に関しては積極的に参加し、内部研修につなげて欲しい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には説明を行い、理解を得ている。料金改定時にはあらかじめ書面にて必要性を通知し、理解、納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。利用者、家族の意見を聞き職員間で検討し速やかに対応している。家族との意見交換等の記録をとり、全職員が周知し対応している。	利用者は日頃の会話で、管理者や職員に随時意見や思いを伝えている。家族への要望などは面会時を活用し、現状報告行っている。意見箱を設置し、契約時に苦情の申出先の説明も行う。家族からは、面会時に職員に口頭で話すことが多く、事業所は貴重な意見と受け止め、随時利用者・家族の意見や思いを運営に反映できるよう努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や職員会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、できる限り反映させている。	管理者は、随時、日常業務を通して、職員が意見を言いやすい雰囲気への工夫や職員からのアイデアを取り入れ、仕事に従事できるような配慮を行っている。異動や離職は最小限に抑えており、職員の交替の引継には必要に応じて十分期間を確保する。今回の自己評価は一部の職員で話し合っており取り組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務内容に配慮し、職員の日頃の努力等も把握し、その成果に対しては評価している。但し、運営者や管理者と職員の努力に対する評価が向上心に繋がるかは職員各々で違いがある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用には法人代表者や管理者が運営経験者のアドバイスや公的機関の指導を受けながら、採用の可否を行っている。	採用選考時には、意欲があるなどを検討し、性別や年齢等を理由に対象から排除することはない。実際、60歳の定年後の再就職として受け入れており、最長年齢の70歳台の職員も在籍しており、より高齢者の気持ちを理解できる職員配置となっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新聞やマスコミ等で取り上げられた諸問題についてその都度教育を行い啓蒙活動に取り組んでいる。	人権教育に関しては、地域からの参加の呼びかけはあっているが、参加ができていない。	研修に関しては内部・外部共に参加する機会が設けられていなかったため、研修計画を見直していただき、次に期待したい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用順や有資格者、経験などを考慮しながら研修会に参加を決定している。研修案内を回覧するなどして自己研修の受講を義務づけている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センター主催で交流する機会（研修会など）がありネットワークが広がりつつある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所1ヶ月は、気づきメモを作成し、情報収集に努め申し送り時に情報を共有している。利用者が不安にならないよう声かけ、見守りを特に心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、利用開始時の際には家族の想いを傾聴し、利用者の状況、家族のニーズを把握している。又信頼関係がたもてるよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を尋ね、必要な支援を把握し、他のサービス利用も含めた調整を行い検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者や職員が共に笑い、職員は利用者方から教えられ、成長している。利用者の思いを共感し絶えずケアさせていただき感謝の気持ちを持ち続けるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会を利用して利用者の情報交換を行っている。共に支え、支えられる関係を日頃から築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、知人の方が訪問されたり、ホーム内で顔を会わせたりと関係が途切れないよう積極的に支援している。	アセスメントにて情報を収集し、一人ひとりのつながりを大事にしている。利用者の思い入れのある場所や馴染みの場所をヒアリングし、可能な範囲で支援に努める。また、家族に協力をお願いし、友人知人との関係が継続できるようにしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を生かしながら、共に助け合い、支えあって暮らしていけるよう配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去された利用者の方等に入院先へ訪問したり、他の施設へ入居された方を訪問して状況を把握するなど継続した関わりを保っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや意向の把握に努め、言語による訴えが出来にくい利用者には行動や表現からニーズの把握に努めている。	職員は日々の関わりの中で、利用者との会話の機会を多く持つことにより、要望・意見の把握に努めている。意思の疎通が困難である利用者へは表情や行動等で利用者の真意を推し測り、季節の行事へ参加してもらうなど、思いや意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族からの聞き取りで生活歴（アセスメント）を把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の生活リズムを把握している。その中で変化を見落とさず、今その利用者が出来る事、わかる事を職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のケアに対する意向を訊いたうえで、利用者がよりよく暮らせる事を基本に計画を作成している。	利用者の状態に変化が見られたときは、家族、かかりつけ医、職員と話し合い、介護計画を作成し、了承の署名を家族からいただいている。状態に変化の見られない利用者は、半年毎の見直しを行っていない。	利用者・家族からの意向がなく、状態も変わらないかもしれませんが、利用者が地域でその人らしく暮らしていくには、定期的なアセスメントを行い、専門的な見地からの提案が必要です。6ヶ月に1回はケア会議を開催し、介護計画を見直す必要があります。
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の状態を体温票や介護日誌に記載している。職員間で問題点を話し、情報を共有しながら実践している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族が安心して暮らしが持続できるようニーズを捉え、できるだけ柔軟に対応できるよう配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防とは特に連携をとっている。民生委員は推進会議に参加していただき、情報交換している。近くの理・美容室の利用も協力していただいている。地域の中学生の職場体験学習も受け入れている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の疾患や症状に応じて訪問医療や往診、入所以前の雇いつけ医や希望される医療機関による受診支援を行っている。	家族が遠方で通院介助が困難な利用者であっても、利用開始前のかかりつけ医の診察が受けられるよう職員が支援している。事業所は診察の状況を電話にて家族へ報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との情報交換を密に行い、利用者の健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院による利用者のダメージを最小限に留め、家族や主治医と相談しながら早期退院が出来るよう努めている。又、病院のソーシャルワーカーとも連携を継続している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を説明し同意をもらっている。終末期について家族の考えや事業所のできる事など意見交換しながら主治医に報告し、指針を共有している。	契約時に重度化した場合における事業所指針の説明を行い、同意を得ている。重症化、終末期が実際訪れた時は、家族、かかりつけ医、職員でサービス担当者会議を行い、方針の統一を図り支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の研修をおこなっている。救急救命の講習を受け、実践に活かせるよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、そのうち1回は、消防署の指導を依頼して実施している。近隣の方々の協力もお願いしている。非常用の食料や簡易トイレなど準備している。	マニュアルを作成し、夜間、昼間を想定した避難訓練を各1回行っている。年1回は消防の立ち会いで訓練を行い、隣近所へも参加協力を呼びかけている。非常用食料、飲料水を事業所内に準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人一人の誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応に配慮している。	トイレでの排泄支援は、便器への移乗が安全に行われるよう対応しながらも、利用者の気持ちを大切に考え、誇り、プライバシーに配慮した支援が行われている。管理者がミーティング時に意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食後やお茶の時間を利用し、利用者の思いを傾聴し、時間をかけて支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人一人の体調、気分に配慮し利用者の希望に添って買い物や散歩など支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理容、美容室がありそれぞれが希望される店へ行っている。又、家族が馴染みの美容師を連れてこられて居室でカットされている利用者もいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の片付けを行っている。職員は食卓と一緒に困り利用者が育てた自家野菜の話やメニューのリクエストを聞いたり楽しみのある食事の支援をおこなっている。	自家菜園で採れた野菜の下ごしらえ、テーブル拭きなど、職員、利用者と共に準備が行われ、職員も一緒に同じテーブルで食事している。食事中は有線放送による心地よい音楽が流れ、食事がより一層楽しみなるよう雰囲気作りが行われている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認、記録は毎食おこなっている。水分摂取量も利用者の状態に応じて支援している。利用者の状態に応じて食事量や形態を変えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯は週1回スペシャルケアを実施している。必要に応じて協力歯科医院より診察やアドバイスを受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン、習慣等を考慮し、利用者の能力に応じた支援を行っている。	習慣や個別での排泄支援ができるよう排泄記録表を2種類作成し使い分けている。利用者の排泄パターンを把握し、尿汚染、夜間の睡眠状況等に応じてオムツ・紙パンツ・ショーツ類を検討し、不快予防へ向けた支援に取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄確認で便秘の状態を把握している。水分補給や食事の内容の工夫、運動促進に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた入浴の支援をしている	入浴時間は昼間の時間帯を当てているが、利用者の希望にあわせて柔軟に対応している。特に入浴拒否の利用者に対しては声かけやタイミングをみながら入浴を支援している。	入浴時間、回数は利用者の意向、状況に応じて柔軟に対応し週3回の入浴日を設けている。入浴を拒まれる利用者へは、声掛け、支援方法を工夫し清潔が保たれるよう個別に対応している。	利用者の入浴は、事業所が決めた曜日や時間帯に合わせるのではなく、一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切に支援を期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態を観察し、個別的に一日の中で休息、安眠の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の目的や用法・用量について薬剤情報等を活用して理解している。服薬支援を行い症状の変化等の確認に務め異常を認められた時は看護師に連絡し対応している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、草取り、野菜作り、唄を歌うことが好きなど利用者に応じて支援を行い、ハリのある毎日が過ごせるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外にでるのは基本的に自由だが、体調や天候に応じて出来る限り外出の支援を行っている。	玄関ポーチに椅子を用意し、体調、天気具合を見ながら敷地内にある季節の花々、果実を何時でも見れるよう支援している。毎週、家族と外食されたり、ご主人の命日に仏様にお供えする花を職員と一緒に買い物へ出かけるなど、一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて支援している。利用者の誕生日には個別に外食の機会を設けている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態や理解力、家族の意向を踏まえ、なるだけ希望に応じた支援をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや連絡は時間に関係なく支援している。家族からの手紙やFAXなどその利用者の居室に持参し、プライバシーにも配慮している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く明るく利用者が動きやすいスペースをつくり、季節の花を生けたりして居心地のよい空間づくりに配慮している。	リビングは天井が高く、天窓から自然光が差し込み、広く感じ、明るい。利用者同士の顔が見れるよう、対面式にソファが置かれている。季節の花が生けられ、壁には季節行事の写真が飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、気のあった利用者が座っておしゃべりしたり一緒にテレビを見たりできる場所を確保している。食卓で椅子に座り一人で過ごすことが好きな利用者への居場所も確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族や利用者の意向を踏まえ、個性を生かした部屋になっている。家具やテレビなどの持ち込みは自由に行っている。	居室には、使い慣れた家具や、家族の写真などの思い出の品々が持ち込まれ、利用者一人ひとりが慣れ親しんだ環境で、落ち着いて過ごせるよう工夫されている。2人の利用者は仏壇を持ち込まれている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペース、浴室、トイレには手すりを設置し、利用者に応じて支援している。自力歩行が困難な利用者には歩行器やキャスター付きの椅子を活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
			○	③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示しており、職員間の申し送り等で、理念の確認を行い実践に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内在住の代表者が町の情報を伝えている。地域の夏祭りに参加したり獅子舞の行事は来所してもらうなどしている。地域のボランティアの来訪もお願いしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営者が地域の方々に機会ある毎に認知症の理解や支援の方法を話している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、意見交換の場として活用してサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課とは介護認定の更新手続きや入所関係の手続き等で出向き、情報を交換している。推進会議の構成員でもあり連携を密にしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームの理念、運営者の信念で禁止している。夜間以外は玄関の施錠は行っていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習をテキストで学んだり、日頃の情報交換から虐待がないよう防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットなどにより、必要な人への説明を行っている。職員間での周知、理解を図っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には説明を行い、理解を得ている。料金改定時にはあらかじめ書面にて必要性を通知し、理解、納得を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。利用者、家族の意見を聞き職員間で検討し速やかに対応している。家族との意見交換等の記録をとり、全職員が周知し対応している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や職員会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、できる限り反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務内容に配慮し、職員の日頃の努力等も把握し、その成果に対しては評価している。但し、運営者や管理者と職員の努力に対する評価が向上心に繋がるかは職員各々で違いがある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	採用には法人代表者や管理者が運営経験者のアドバイスや公的機関の指導を受けながら、採用の可否を行っている。		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	新聞やマスコミ等で取り上げられた諸問題についてその都度教育を行い啓蒙活動に取り組んでいる。		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	採用順や有資格者、経験などを考慮しながら研修会に参加を決定している。研修案内を回覧するなどして自己研修の受講を義務づけている。		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域包括センター主催で交流する機会（研修会など）がありネットワークが広がりつつある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入所1ヶ月は、気づきメモを作成し、情報収集に努め申し送り時に情報を共有している。利用者が不安にならないよう声かけ、見守りを特に心がけている。		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	相談時、利用開始時の際には家族の想いを傾聴し、利用者の状況、家族のニーズを把握している。又信頼関係がたもてるよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を尋ね、必要な支援を把握し、他のサービス利用も含めた調整を行い検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者や職員が共に笑い、職員は利用者方から教えられ、成長している。利用者の思いを共感し絶えずケアさせていただき感謝の気持ちを持ち続けるようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会を利用して利用者の情報交換を行っている。共に支え、支えられる関係を日頃から築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、知人の方が訪問されたり、ホーム内で顔を会わせたりと関係が途切れないよう積極的に支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を生かしながら、共に助け合い、支えあって暮らしていけるよう配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去された利用者の方等に入院先へ訪問したり、他の施設へ入居された方を訪問して状況を把握するなど継続した関わりを保っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや意向の把握に努め、言語による訴えが出来にくい利用者には行動や表現からニーズの把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族からの聞き取りで生活歴（アセスメント）を把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の生活リズムを把握している。その中で変化を見落とさず、今その利用者が出来る事、わかる事を職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のケアに対する意向を聞いたうえで、利用者がよりよく暮らせる事を基本に計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の状態を体温票や介護日誌に記載している。職員間で問題点を話し、情報を共有しながら実践している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族が安心して暮らしが持続できるようニーズを捉え、できるだけ柔軟に対応できるように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防とは特に連携をとっている。民生委員は推進会議に参加していただき、情報交換している。近くの理・美容室の利用も協力していただいている。地域の中学生の職場体験学習も受け入れている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の疾患や症状に応じて訪問医療や往診、入所以前の雇りつけ医や希望される医療機関による受診支援を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との情報交換を密に行い、利用者の健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院による利用者のダメージを最小限に留め、家族や主治医と相談しながら早期退院が出来るよう努めている。又、病院のソーシャルワーカーとも連携を継続している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を説明し同意をもらっている。終末期について家族の考えや事業所のできる事など意見交換しながら主治医に報告し、指針を共有している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の研修をおこなっている。救急救命の講習を受け、実践に活かせるよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、そのうち1回は、消防署の指導を依頼して実施している。近隣の方々の協力もお願いしている。非常用の食料や簡易トイレなど準備している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人一人の誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応に配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食後やお茶の時間を利用し、利用者の思いを傾聴し、時間をかけて支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人一人の体調、気分に配慮し利用者の希望に添って買い物や散歩など支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容室がありそれぞれが希望される店へ行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の片付けを行っている。職員は食卓と一緒に囲み利用者が育てた自家野菜の話やメニューのリクエストを訊いたり楽しみのある食事の支援をおこなっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認、記録は毎食おこなっている。水分摂取量も利用者の状態に応じて支援している。利用者の状態に応じて食事量や形態を変えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯は週1回スペシャルケアを実施している。必要に応じて協力歯科医院より診察やアドバイスを受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン、習慣等を考慮し、利用者の能力に応じた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄確認で便秘の状態を把握している。水分補給や食事の内容の工夫、運動促進に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間は昼間の時間帯を当てているが、利用者の希望にあわせて柔軟に対応している。特に入浴拒否の利用者に対しては声かけやタイミングをみながら入浴を支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態を観察し、個別的に一日の中で休息、安眠の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の目的や用法・用量について薬剤情報等を活用して理解している。服薬支援を行い症状の変化等の確認に務め異常を認められた時は看護師に連絡し対応している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草取り、野菜作り、手芸が好きな利用者に応じて支援を行い、ハリのある毎日が過ごせるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外にでるのは基本的に自由だが、体調や天候に応じて出来る限り外出の支援を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態や理解力、家族の意向を踏まえ、なるだけ希望に応じた支援をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎや連絡は時間に関係なく支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広く明るく利用者が動きやすいスペースをつくり、季節の花を生けたりして居心地のよい空間づくりに配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、気のあった利用者が座っておしゃべりしたり一緒にテレビを見たりできる場所を確保している。食卓で椅子に座り一人で過ごすことが好きな利用者への居場所も確保している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族や利用者の意向を踏まえ、個性を生かした部屋になっている。家具やテレビなどの持ち込みは自由に行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペース、浴室、トイレには手すりを設置し利用者に応じて支援している。自力歩行が困難な利用者には歩行器やキャスター付きの椅子を活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない